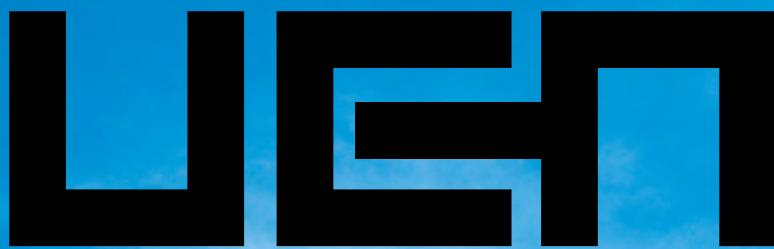


大学評価室ニュースレター



UNIVERSITY EVALUATION NEWSLETTER

創刊号
1

2009.4

法政大学総長室付大学評価室
東京都千代田区富士見2-17-1
tel.03-3264-9903

- 1 自己点検・評価の実質化に向けて
総長 増田 壽男
 - 2 教育の質保証に向けて新たなスタート
常務理事 浜村 彰
 - 3 **TOPIC 1** 2009年度の自己点検・評価活動が
スタートしました。
 - 4 **TOPIC 2** 点検評価企画委員会が発足しました。
 - 5 **TOPIC 3** イノベーション・マネジメント研究科
イノベーション・マネジメント専攻が認証評価を受けました。
- 活動報告
- 6 大学評価室です
- 編集後記



総長 増田 壽男

TOP
MESSAGE 1

自己点検・評価の実質化に向けて

本学は2007年に大学基準協会の認証評価を受け
大学基準に適合しているという評価を受けました。
しかしそこでは「自己評価・自己点検活動と改善・改
革システムの連結に関しては、総括的な記述に終始
しているので、今後具体的なシステム構築に努力す
る必要がある」という厳しい指摘を受けました。さ
らに2011年度以降の大学評価のあり方を大幅に変
更するという方針が大学基準協会から示されてい
ます。それは自己点検・評価の形骸化を改善し、実質
化させる方向への改革です。

これらを受け、本学では、学士力の向上に真に役

立てる目的に沿って、自己点検・評価を実質化する
ために大学評価室を2008年11月に設置し、自己点
検・評価体制の充実のために点検委員会、評価委員
会、企画委員会という組織を作り、従来の自己点
検評価委員会を改組し、より充実したものにしま
した。しかし、組織だけでは真の自己点検ができな
いことは明らかです。教職員の自己改革に向けた
努力こそがもっとも求められていると思います。
法政独自の社会に出て自立した個性を持った社会
人を養成するために、全学を挙げて頑張りたい
と思います。



TOP MESSAGE 2

教育の質保証に向けて 新たなスタート

法政大学は、競合他大学と比べていち早く学部の新増設・改組転換などの教学改革に着手してきましたが、次に取り組むべき大きな課題として教育内容の充実化が残されていました。そうした折に文部科学省も教育の質保証としての「学士課程教育の構築」という新機軸を打ち出し、くしくも法政大学が切りはじめた舵の方向と一致することとなりました。大学の教育課程で「なにを教えるか」ではなく、「学生が何を獲得できるのか」という学生起点の観点から、教育内容の見直しを行い、社会からの信頼に応え国際通用性を備えた学位の質保証に取り組むことが求められています。幸いなことにこの点について多くの教職員が共通の認

識を持っていたこともあって、新たな自己点検・評価体制がスピーディに作り上げられ、この春からスタートすることができました。各学部や研究科が、これまで熱心に取り組んできた教学改革をより実質化させ、新たな段階に進むサイクルを構築するために、絶え間ない教育の質の改善とその自己検証、それを踏まえた新たな改革のステップを繰り返すことがこれから始まります。



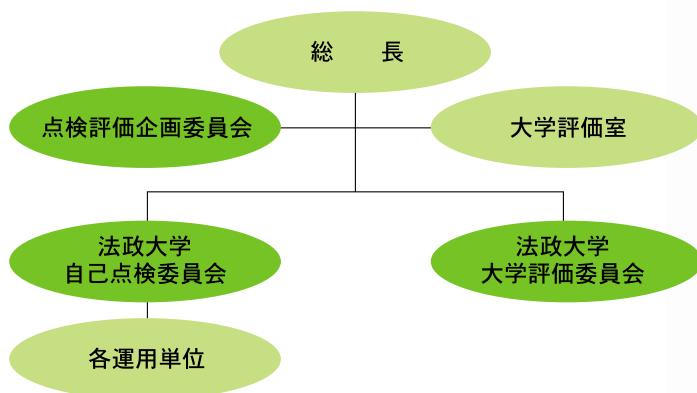
常務理事 浜村 彰

新たな自己点検・評価体制

本学は1994年4月に全学自己点検・評価委員会を発足させ、これまで3回(1996、2000、2005)の全学的点検・評価を実施してきました。しかし、責任体制の不明確さなどが指摘されるとともに、より実質的な自己点検・評価活動の必要性が高まってきました。これを受け、従前の委員会を発展させ、2009年1月より法政大学自己点検委員会を置くとともに、法政大学大学評価委員会、点検評価企画委員会を新設し、3つの委員会を中心とす

る新たな自己点検・評価体制を構築しました。

点検委員会は学部執行部等で構成し点検活動の主体となる委員会、評価委員会は学内外の有識者で構成し客観的評価を行う委員会、企画委員会は自己点検・評価体制の企画・立案・調整を行う委員会です。この3つの委員会が有機的に連携しながら継続的改善を実施していきます。



『自己点検・評価体制の概要』を発行しました。



TOPIC 1

2009年度の自己点検・評価活動がスタートしました。

3月より新しいかたちでの自己点検・評価活動が正式にスタートしました。まずは、5月29日までに、現状分析をもとにして、PDCAのP(プラン)にあたる中期目標と年度目標の設定作業を行います。今年度の流れは以下の通りです。



TOPIC 2

点検評価企画委員会が発足しました。

点検評価企画委員会は、自己点検・評価体制の企画・立案・調整を行う委員会です。点検・評価項目の提案や各種アンケート調査の企画立案等を行っています。今後は6つの担当(①点検・評価項目、②アンケート、③調査、④編集、⑤付属校プロジェクト、⑥大学データの可視化プロジェクト)に分かれてさまざまな活動を推進していきます。今期のメンバーは次の通りです。

浜村彰委員長(常務理事)、公文溥副委員長(大学評価室長、社会学部教授)
田中和生(文学部准教授)、奥山利幸(経済学部教授)、上林千恵子(社会学部教授)、
佐野哲(経営学部教授)、高村雅彦(デザイン工学部教授)、浦谷規(理工学部教授)、
武藤博己(政策創造研究科教授)、川上忠重(理工学部教授)、藤野吉成(総長室課長)、
高橋健悦(学務部教学企画課長)

任期:2009年1月21日～2011年1月20日



Q&A

このコーナーではQ&A方式でわかりやすく解説していきます。
今回のテーマは「認証評価ってなに?」です。

Q1

なぜ大学は認証評価を受けなければならないの?

A

学校教育法第109条第2項および同施行令第40条の規定において、大学はその教育研究等の総合的な状況について、7年以内ごと(専門職大学院は5年以内ごと)に文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による評価(認証評価)を受けることが義務付けられています。認証評価機関には、(独)大学評価・学位授与機構、(財)大学基準協会、(財)日本高等教育評価機構等があります。本学は、大学・大学院については、大学基準協会より認証評価を受けており、認定期間は2007年4月から2014年3月です。

専門職大学院については、法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科イノベーション・マネジメント専攻がそれぞれ個別の申請により受審しています。法務研究科の認定期間は2008年4月から2013年3月、イノベーション・マネジメント専攻の認定期間は、2009年4月から2014年3月です。

イノベーション・マネジメント研究科アカウンティング専攻は今年度申請する予定です。

Q2

次の認証評価ではどんなことがポイントになるの?

A

大学の内部に質保証システムが構築され、PDCAサイクルが実質的に機能しているかが一番のポイントになります。自己点検・評価結果を次の改革・改善につなげていくための部門別PDCAの整備が必要です。新しい自己点検・評価体制では、学部・研究科・研究所に加え、事務組織も運用単位として位置づける規定としました。

Q3

本学は次の認証評価までに何をしなければならないの?

A

大学・大学院(専門職大学院除く)では2012年度に認証評価を受ける予定です。

- | | |
|--------|--|
| 2009年度 | PDCAサイクル実施(1回目)
中期目標・年度目標設定(5月末)
2006~08年度自己点検報告書提出(5月末)
中間報告(9月) |
| 2010年度 | PDCAサイクル実施(2回目)
前回認証評価結果に基づく改善状況報告書の提出(7月) |
| 2011年度 | PDCAサイクル実施(3回目)
自己点検・評価報告書の作成
大学評価申請書類の提出(1月) |
| 2012年度 | 大学評価資料の提出(4月)
大学基準協会書面審査・実地視察(6~10月)
評価結果受理(2013年3月) |

以上のように、できる限りPDCAを実質化させたうえで、認証評価を受けることが望まれます。なお、専門職大学院については、認定期間に内に申請することになります。



TOPIC 3

イノベーション・マネジメント研究科イノベーション・マネジメント専攻が認証評価を受けました。

本年3月イノベーション・マネジメント研究科イノベーション・マネジメント専攻は、財団法人大学基準協会より「経営系専門職大学院基準に適合している」との認定を受けました。認定の期間は2014年3月31日までです。

認証評価結果では、「学生と教員との個人的指導体制が高い次元で充実しており、各教員の熱心かつ親身な指導に対し、学生の満足度は極めて

高いものとなっている。このような学生と教員のいわばミクロな関係は、学習、研究のみならず、就職指導、進路指導にも同様に及んでいると認められる。ミクロの関係の深さ、円滑さは貴専攻の極めて優れた長所と考えられる」との高い評価を受けています。詳細についてはホームページ等で公表する予定です。

活動報告

自己点検・評価項目達成状況調査を実施しました。

2009年2月～3月にかけて専任教員を対象に自己点検・評価項目達成状況調査を実施しました。これは、教授会執行部が「各教員が所属学部等の現状をどのように認識しているか」を把握し目標設定等に活用すること、および専任教員が自己点検・評価の対象事項について理解を深め、主体的に改善に向けて活動していくための情報を提供することを目的としています。意識を反映し、60パーセントを超える高い回収率となっております。また、積極的な問題提起や貴重な意見等も数多く寄せられています。調査結果は学部長・研究科長にそれぞれフィードバックされます。

第1回大学評価室セミナーを開催しました。

2009年3月19日に大学基準協会の工藤潤氏を講師に迎え、内部質保証体制の構築に関する大学評価室セミナーを実施しました。セミナーには

学部長や研究科長、事務部長など多数の方に参加いただきました。参加者からは大変勉強になった等の声がありました。セミナーの内容は、次号で報告する予定です。

本セミナーは自己点検・評価活動の推進を目的とするもので、シリーズ化して実施していく予定です。皆様からのご意見をお待ちしております。

卒業生アンケート調査を実施しました。

2009年3月24日に卒業生アンケート調査(学部の通学課程を対象)を実施しました。調査の内容は主として、教育内容に関する満足度、サービス・施設・設備に関する満足度、法政大学に対する評価の3点です。これまで、学部単位では卒業生対象の調査を実施していましたが、全学部の卒業生を対象とした同一設問による調査の実施は初めての試みとなります。調査結果は次号で報告する予定です。

大学評価室です

大学評価室担当常務理事 事務部長兼務 浜村 彰

大学評価室長 公文 淳 社会学部教授

課長補佐 山田 佳男

主任 田中 一平

事務嘱託 武居 孝子

業務内容は次の通りです。

- (1) 教育・研究及び管理運営等に関する評価並びに改善、向上を図るための方策に関すること。
- (2) 大学評価のための情報収集・調査・分析に関すること。
- (3) 大学評価のためのデータベース構築及び管理並びにその情報提供に関すること。
- (4) 認証評価に関すること。
- (5) 自己点検・評価に関連する各種委員会の事務に関すること。
- (6) その他、大学評価に関すること。



手前 公文 大学評価室長
後列左より 山田課長補佐、田中主任、武居室員

どうぞよろしくお願い致します。

編集後記



本ニュースレターの名称を募集しています。
また、大学評価室への幅広いご意見をお待ちしております。メールにてお寄せください。

法政大学

総長室付大学評価室

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

tel.03-3264-9903

fax.03-3264-4077

E-mail:hyoka@hosei.ac.jp



<http://www.hosei.ac.jp/hyoka>



再生紙使用
2009.4/5000